

国技建管第 30 号
平成 30 年 3 月 20 日

各地方整備局 技術調整管理官 殿
北海道開発局 技術管理企画官 殿
国土技術政策総合研究所 建設マネジメント研究官 殿

国土交通省
大臣官房技術調査課
建設システム管理企画室長
(公印省略)

「平成 30 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」の策定について

平成 30 年 4 月 1 日以降に入札書提出期限日を設定している工事から適用する「平成 30 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」(別添)を定めたので、通知する。

また、標準単価表については、国土技術政策総合研究所ホームページにおいて公表することを申し添える。

なお、「平成 29 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表 (平成 29 年 4 月 1 日以降に入札書提出期限日を設定している工事から適用)」の策定について」(平成 29 年 3 月 15 日付け国技建管第 14 号)は、平成 30 年 3 月 31 日をもって廃止する。

国技建管第 30 号の 2
平成 30 年 3 月 20 日

内閣府
沖縄総合事務局 技術企画官 殿

国土交通省
大臣官房技術調査課
建設システム管理企画室長
(公印省略)

「平成 30 年度 施工パッケージ型積算方式 標準単価表」の策定について

標記について、別添のとおり各地方整備局長等あて通知したので、貴局におかれましても準拠されたい。

(別 添)

平成30年度

施工パッケージ型積算方式標準単価表

(平成30年4月1日以降に入札書提出期限日を設定している
工事から適用)

国土交通省

I.	施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方	・ ・ ・	I
II.	標準単価から積算単価への補正方法	・ ・ ・ ・ ・	II - 1
II - 1.	補正式	・ ・ ・ ・ ・	II - 1
II - 2.	標準単価から積算単価への計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 2
	①地域及び時期の違いによる補正の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 2
	②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 3
	③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 4
	④時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例	・ ・ ・	II - 6
	⑤支給品がある場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 7
	⑥無償貸付機械がある場合の計算例	・ ・ ・ ・ ・	II - 8
III.	物価変動に伴う標準単価及び機労材構成比の改定	・ ・ ・ ・ ・	III - 1
IV.	施工パッケージ 標準単価 一覧	・ ・ ・ ・ ・	IV

I. 施工パッケージ型積算方式標準単価表の見方

施工パッケージ型積算方式標準単価表（以下「単価表」という。）は、施工パッケージ単位でとりまとめています。単価表に記載されている用語の定義は以下の通りです。

■条件区分

施工パッケージ型積算基準に定められた、各施工パッケージの積算条件区分一覧における条件区分です。

■標準単価

各条件区分に対応した、東京地区（東京 17 区）における基準年月（平成 30 年度版の基準年月は平成 29 年 4 月）の施工単位当たりの単価（円）です。この標準単価を基に地区や年月等の補正を行い、積算単価を算出します。

（注）標準単価は、毎年度更新しています。更新の際には、実際の施工状況の変動や、標準単価を構成する個々の単価（機械経費単価・労務単価・材料単価・市場単価）の物価変動等を反映させて、標準単価を設定しています。

■機労材構成比

標準単価に対する機械経費(K)、労務費(R)、材料費(Z)、市場単価(S)の金額構成比率です。なお、K、R、Zは機械経費、労務費、材料費それぞれの合計金額構成比率であり、K1～K3、R1～R4、Z1～Z4、Sは各代表的な規格の金額構成比率です。また、各合計金額構成比率(K、R、Z)は代表的な規格以外の金額も含むため、K1～K3、R1～R4、Z1～Z4の合計がK、R、Zと一致しない場合があります。

■代表機労材規格

「機労材構成比」で代表的な規格の金額構成比率を示した機械経費、労務費、材料費、市場単価の具体的な規格名称です。ただし、コンクリートやアスファルト等の材料規格については、最も代表的な材料規格のみを示しています。

留意事項

- (1) 単価表には、補正に使用する機械経費、労務単価、材料単価は記載していません。
これらの単価等は土木請負工事工事費積算基準の定めにより下記の通りとなります。
機械経費：請負工事機械経費積算要領
労務単価：公共工事設計労務単価
材料単価：物価資料等
- (2) 土木工事標準積算基準書等に記載している「代表機労材規格一覧」は、機械経費、労務費、材料費、市場単価の代表的な組合せのみを記載している場合等があり、単価表の記載内容と一致しないことがあります。その場合は、単価表の記載内容を適用するものとします。

Ⅱ．標準単価から積算単価への補正方法

Ⅱ－１．補正式

標準単価は、東京地区(東京 17 区)における基準年月(平成 29 年 4 月)の施工単位当たりの単価であることから、地域及び時期の違いによる補正を行い、積算単価にします。

標準単価(P)から積算単価(P')への補正は、各施工パッケージの機労材構成比を用い、下記の式により算出します。

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

P'	: 積算単価(積算地区、積算年月)
P	: 標準単価(東京地区、基準年月)
Kr	: 標準単価における全機械(K1~K3, 他)の構成比合計
K1r~K3r	: 標準単価における代表機械規格 K1~3 の構成比
K1t~K3t	: 代表機械規格 K1~3 の単価(東京地区、基準年月)
K1t'~K3t'	: 代表機械規格 K1~3 の単価(積算地区、積算年月)
Rr	: 標準単価における全労務(R1~R4, 他)の構成比合計
R1r~R4r	: 標準単価における代表労務規格 R1~4 の構成比
R1t~R4t	: 代表労務規格 R1~4 の単価(東京地区、基準年月)
R1t'~R4t'	: 代表労務規格 R1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Zr	: 標準単価における全材料(Z1~Z4, 他)の構成比合計
Z1r~Z4r	: 標準単価における代表材料規格 Z1~4 の構成比
Z1t~Z4t	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(東京地区、基準年月)
Z1t'~Z4t'	: 代表材料規格 Z1~4 の単価(積算地区、積算年月)
Sr	: 標準単価における市場単価 S の構成比
St	: 市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)
St'	: 市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

標準単価から積算単価への補正方法は、地域及び時期の違いによる補正(下記①)に加え、下記②~⑥の補正が必要な場合があります。

- ① 地域及び時期の違いによる補正
- ② 代表材料以外の規格により積算する場合
- ③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合
- ④ 時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合
- ⑤ 支給品がある場合
- ⑥ 無償貸付機械がある場合

II-2. 標準単価から積算単価への計算例

①地域及び時期の違いによる補正の計算例

(施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合)

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条件区分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・ 標準単価：47,210 円

→ 大阪地区の H30.4 における積算単価を算出

表 1：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		2.45	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.34	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.34	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.22	416	416
R		42.27	—	—
R1	普通作業員	15.18	19,700	18,000
R2	型わく工	9.94	24,700	23,500
R3	土木一般世話役	3.45	23,300	22,500
R4	特殊作業員	0.95	22,600	20,400
Z		42.61	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	29.67	13,700	16,500
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	11.09	56,500	69,000
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.29	62.2	73.7
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	0.48	101	114
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.67	66,500	51,000

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H30.4}) = 47,210$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.34}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.34}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.22}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.45}{1.34 + 0.34 + 0.22} \right. \\
 & + \left(\frac{15.18}{100} \times \frac{18,000}{19,700} + \frac{9.94}{100} \times \frac{23,500}{24,700} + \frac{3.45}{100} \times \frac{22,500}{23,300} + \frac{0.95}{100} \times \frac{20,400}{22,600} \right) \times \frac{42.27}{15.18 + 9.94 + 3.45 + 0.95} \\
 & + \left(\frac{29.67}{100} \times \frac{16,500}{13,700} + \frac{11.09}{100} \times \frac{69,000}{56,500} + \frac{1.29}{100} \times \frac{73.7}{62.2} + \frac{0.48}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{42.61}{29.67 + 11.09 + 1.29 + 0.48} \\
 & + \frac{12.67}{100} \times \frac{51,000}{66,500} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.45 - 42.27 - 42.61 - 12.67}{100} \right\} = 48,623.0697713 \dots \approx \mathbf{48,630}(\text{円/m}^3)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：高炉 18-8-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、
基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：47,210 円

→ 大阪地区の H30.4 における積算単価を算出

表 2：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		2.45	—	—
	K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	51,800	51,800
	K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (* 賃料)	747	715
	K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	416	416
R		42.27	—	—
	R1	普通作業員	19,700	18,000
	R2	型わく工	24,700	23,500
	R3	土木一般世話役	23,300	22,500
	R4	特殊作業員	22,600	20,400
Z		42.61	—	—
	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	13,700	<u>16,300</u> (高炉 18-8-25(20))
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	56,500	69,000
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローラー	62.2	73.7
	Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	101	114
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.67	66,500	51,000

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H30.4}) = 47,210$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.34}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.34}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.22}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.45}{1.34 + 0.34 + 0.22} \right. \\
 & + \left(\frac{15.18}{100} \times \frac{18,000}{19,700} + \frac{9.94}{100} \times \frac{23,500}{24,700} + \frac{3.45}{100} \times \frac{22,500}{23,300} + \frac{0.95}{100} \times \frac{20,400}{22,600} \right) \times \frac{42.27}{15.18 + 9.94 + 3.45 + 0.95} \\
 & + \left(\frac{29.67}{100} \times \frac{16,300}{13,700} + \frac{11.09}{100} \times \frac{69,000}{56,500} + \frac{1.29}{100} \times \frac{73.7}{62.2} + \frac{0.48}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{42.61}{29.67 + 11.09 + 1.29 + 0.48} \\
 & + \frac{12.67}{100} \times \frac{51,000}{66,500} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.45 - 42.27 - 42.61 - 12.67}{100} \right\} = 48,418.2003565 \dots \approx \mathbf{48,420(\text{円/m}^3)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

1. 「基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)」
「基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)」
「排水性舗装・表層(車道・路肩部)」「透水性アスファルト舗装」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・ 条 件 区 分：1.4m 以上、1 層当り平均仕上り厚 **70mm**、密粒度 As20
（締固め後密度 2.35t/m3）、タックコート PK-4
- ・ 標 準 単 価：1,564.6 円

→ 大阪地区の H30.4 における積算単価を算出

表 3：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		3.65	—	—
K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅 2.4~6.0m	1.97	41,100	41,100
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 8~20t	0.55	11,400	11,400
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 10~12t 締固め幅 2.1m	0.55	12,400	12,400
R		9.07	—	—
R1	普通作業員	3.28	19,700	18,000
R2	特殊作業員	1.87	22,600	20,400
R3	運転手 (特殊)	1.83	22,200	20,200
R4	土木一般世話役	0.64	23,300	22,500
Z		87.28	—	—
Z1	アスファルト混合物 密粒度 A S 混合物(20) (平均仕上り厚 50mm)	84.44	525,000 ^(注) (50mm×10,500 円/t)	756,000 ^(注) (70mm×10,800 円/t)
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.43	88.5	88
Z3	軽油 1.2 号 パトロール給油	0.35	101	114
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H30.4}) = 1,564.6$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.97}{100} \times \frac{41,100}{41,100} + \frac{0.55}{100} \times \frac{11,400}{11,400} + \frac{0.55}{100} \times \frac{12,400}{12,400} \right) \times \frac{3.65}{1.97 + 0.55 + 0.55} \right. \\
 & + \left(\frac{3.28}{100} \times \frac{18,000}{19,700} + \frac{1.87}{100} \times \frac{20,400}{22,600} + \frac{1.83}{100} \times \frac{20,200}{22,200} + \frac{0.64}{100} \times \frac{22,500}{23,300} \right) \times \frac{9.07}{3.28 + 1.87 + 1.83 + 0.64} \\
 & + \left(\frac{84.44}{100} \times \frac{756,000}{525,000} + \frac{2.43}{100} \times \frac{88}{88.5} + \frac{0.35}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{87.28}{84.44 + 2.43 + 0.35} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.65 - 9.07 - 87.28}{100} \right\} = 2,134.6546176 \dots \approx 2,135(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(注)アスファルト混合物の材料費(m2 当り)は、平均仕上り厚(mm) / 1,000 × 締固め後密度(t/m3) × 材料単価(円/t)
×(1+ロス率)で算出するが、締固め後密度(t/m3)に応じた標準単価を選択するため、締固め後密度が同条件
となることから、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれ
ている。

2. 「安定処理」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：安定処理
- ・ 条 件 区 分：バックホウ、構造物基礎、1m を超え 2m 以下、
 固化材使用量 7.00t/100m² (材料ロスを含む)
- ・ 標 準 単 価：2,121.1 円

→ 大阪地区の H30.4 における積算単価を算出

表 4：安定処理の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		9.07	—	—
K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t (*賃料)	7.83	9,840	10,500
K2	振動ローラ(舗装用)[ハンドガイド式] 質量 0.8~1.1t (*賃料)	1.24	1,560	1,650
K3	—	—	—	—
R		55.94	—	—
R1	土木一般世話役	14.87	23,300	22,500
R2	特殊作業員	14.39	22,600	20,400
R3	運転手(特殊)	14.14	22,200	20,200
R4	普通作業員	12.54	19,700	18,000
Z		34.99	—	—
Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・ 1 トンバツク(5.25t/100m ²)	30.44	64,575 ^(注) (5.25t/100m ² ×12,300 円/t)	81,900 ^(注) (7.00t/100m ² ×11,700 円/t)
Z2	軽油 1.2 号 バトロール給油	4.55	101	114
Z3	—	—	—	—
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H30.4}) = 2,121.1$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{7.83}{100} \times \frac{10,500}{9,840} + \frac{1.24}{100} \times \frac{1,650}{1,560} \right) \times \frac{9.07}{7.83 + 1.24} \right. \\ & + \left(\frac{14.87}{100} \times \frac{22,500}{23,300} + \frac{14.39}{100} \times \frac{20,400}{22,600} + \frac{14.14}{100} \times \frac{20,200}{22,200} + \frac{12.54}{100} \times \frac{18,000}{19,700} \right) \\ & \times \frac{55.94}{14.87 + 14.39 + 14.14 + 12.54} \\ & + \left(\frac{30.44}{100} \times \frac{81,900}{64,575} + \frac{4.55}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{34.99}{30.44 + 4.55} \\ & \left. + \frac{100 - 9.07 - 55.94 - 34.99}{100} \right\} = 2,228.8907802 \dots \approx 2,229(\text{円/m}^2) \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目以降切り上げ。

(注)セメント系固化材の材料費(m² 当り)は、固化材使用量(材料ロスを含む)(t/100m²) / 100 × 材料単価(円/t) で算出するが、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれていないため、材料のロス分を含んだ実数を入力する必要がある。

④時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例
(時間外割増賃金による補正の計算例)

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条 件 区 分：高炉 24・12・25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、
基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し
- ・標 準 単 価：47,210 円

→ 大阪地区の H30.4 おける 労務費 20%割増 の積算単価を算出

表 5：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		2.45	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.34	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.34	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.22	416	416
R		42.27	—	—
R1	普通作業員	15.18	19,700	<u>21,600</u> (18,000×1.2)
R2	型わく工	9.94	24,700	<u>28,200</u> (23,500×1.2)
R3	土木一般世話役	3.45	23,300	<u>27,000</u> (22,500×1.2)
R4	特殊作業員	0.95	22,600	<u>24,480</u> (20,400×1.2)
Z		42.61	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24・12・25(20) W/C 55%	29.67	13,700	16,500
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	11.09	56,500	69,000
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.29	62.2	73.7
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	0.48	101	114
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.67	66,500	51,000

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H30.4}) = 47,210$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.34}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.34}{100} \times \frac{715}{747} + \frac{0.22}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.45}{1.34 + 0.34 + 0.22} \right. \\
 & + \left(\frac{15.18}{100} \times \frac{21,600}{19,700} + \frac{9.94}{100} \times \frac{28,200}{24,700} + \frac{3.45}{100} \times \frac{27,000}{23,300} + \frac{0.95}{100} \times \frac{24,480}{22,600} \right) \times \frac{42.27}{15.18 + 9.94 + 3.45 + 0.95} \\
 & + \left(\frac{29.67}{100} \times \frac{16,500}{13,700} + \frac{11.09}{100} \times \frac{69,000}{56,500} + \frac{1.29}{100} \times \frac{73.7}{62.2} + \frac{0.48}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{42.61}{29.67 + 11.09 + 1.29 + 0.48} \\
 & + \frac{12.67}{100} \times \frac{51,000}{66,500} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.45 - 42.27 - 42.61 - 12.67}{100} \right\} = 52,343.2878171 \dots \approx \mathbf{52,350(\text{円/m}^3)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

⑤支給品がある場合の計算例

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：高炉 18-8-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、
基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：47,210 円

→ 大阪地区の H30.4 における 生コンクリートが支給された場合の施工パッケージ単位
当たりの【支給品費】及び【支給品費が控除された積算単価】を算出

表 6：L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		2.45	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.34	51,800	51,800
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・ 直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.34	747	715
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.22	416	416
R		42.27	—	—
R1	普通作業員	15.18	19,700	18,000
R2	型わく工	9.94	24,700	23,500
R3	土木一般世話役	3.45	23,300	22,500
R4	特殊作業員	0.95	22,600	20,400
Z		42.61	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%	29.67	13,700	<u>16,300</u> (高炉 18-8-25(20) (支給品))
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	11.09	56,500	69,000
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローラー	1.29	62.2	73.7
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	0.48	101	114
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.67	66,500	51,000

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

【支給品費】

$$\text{支給品費} = 47,210 \times \frac{29.67}{100} \times \frac{16,300}{13,700} = 16,665.5090583 \dots \approx \mathbf{16,665(\text{円}/\text{m}^3)}$$

※支給品費は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

【支給品費が控除された積算単価】

$$\begin{aligned} \text{支給品費が控除された積算単価} &= (\text{端数調整なしの積算単価}) - (\text{端数調整なしの支給品費}) \\ &= 48,418.2003565 \dots - 16,665.5090583 \dots = 31,752.6912981 \dots \approx \mathbf{31,760(\text{円}/\text{m}^3)} \end{aligned}$$

※ 1. 端数調整なしの積算単価 (48,418.2003565 ...) は「②代表材料以外の規格により積算する場合の計算例」内の計算式を参照

※ 2. 支給品費が控除された積算単価は、端数調整した場合の積算単価 (48,420 円/m³) と同じ単位止め (以降切り上げ) とする。今回の計算例では、1 円の位以降を切り上げ。

- 1) 端数調整した場合の積算単価が 484.2 円/m³ の場合、小数第 2 位以降を切り上げ。
- 2) 端数調整した場合の積算単価が 4,842 円/m³ の場合、小数第 1 位以降を切り上げ。

⑥無償貸付機械がある場合の計算例

1. 「散在塵芥収集」「堆積塵芥収集(機械処理)」「堆積塵芥収集(人力処理)」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：堆積塵芥収集（機械処理）
- ・ 条 件 区 分：運搬のみ、木片・空き缶・枯草等のかさ高物、
DID 区間無し、運搬距離 11.5km 以下、ダンプトラック貸与
- ・ 標 準 単 価：887.70 円

→ 大阪地区の H30.4 における ダンプトラックが貸与された場合の施工パッケージ単位当たりの【積算単価】及び【無償貸付機械等評価額】を算出

表 7：堆積塵芥収集（機械処理）の代表規格・構成比

規格		構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4) (円)
K		1.09	—	—
K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級	1.09	4,618 (損料 4,440) (タテ損耗費 178)	4,798 (損料 4,620) (タテ損耗費 178)
R		88.11	—	—
R1	運転手（一般）	88.11	18,400	17,000
Z		10.80	—	—
Z1	軽油 1.2 号 バトロール給油	10.80	101	114

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

【積算単価】

$$\begin{aligned}
 P'(\text{大阪 H30.4}) &= 887.70 \\
 &\times \left\{ \left(\frac{1.09}{100} \times \frac{4,798}{4,618} \right) \times \frac{1.09}{1.09} + \left(\frac{88.11}{100} \times \frac{17,000}{18,400} \right) \times \frac{88.11}{88.11} + \left(\frac{10.80}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{10.80}{10.80} \right. \\
 &\left. + \frac{100 - 1.09 - 88.11 - 10.80}{100} \right\} = 840.9054554 \dots \approx \mathbf{841.0(\text{円/m}^2)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字 4 桁、5 桁目を降切り上げ

【無償貸付機械等評価額】

無償貸付機械等評価額 = (端数調整なしの持込損料) - (端数調整なしの貸与損料)

$$= 267.8242968 \dots - 10.0530775 \dots = 257.7712193 \dots \approx 257.7(\text{円})$$

$$\text{端数調整なしの持込損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t' + T}{K1t} \times \frac{K1t'' + T'}{K1t''' + T'} = 887.70 \times \frac{1.09}{100} \times \frac{4,620 + 178}{4,618} \times \frac{1000 + 39}{0 + 39} = 267.8242968 \dots$$

$$\text{端数調整なしの貸与損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t' + T}{K1t} = 887.70 \times \frac{1.09}{100} \times \frac{4,620 + 178}{4,618} = 10.0530775 \dots$$

※無償貸付機械等評価額は 1,000 円以上の場合、円未満切り捨て。1,000 円未満の場合は、小数位含め有効数字 4 桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第 2 位までとし、3 位以下は切り捨てる。

K1t' : K1 の供用日当り換算損料

K1t'' : K1 の時間 (日) 当り換算損料

K1t''' : K1 の時間 (日) 当り貸与損料

T : K1 に対する供用日当りの損耗品及び補修費

T' : K1 に対する時間 (日) 当りの損耗品及び補修費

2. 「付属構造物塗替」「素地調整」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：付属構造物塗替
- ・ 条 件 区 分：鉛系錆止めペイント 2種 下塗 淡彩、
全高 4m 以上 10m 未満のポール類、貸与
- ・ 標 準 単 価：1,658.3 円

→ 大阪地区の H30.4 における 高所作業車が貸与された場合の施工パッケージ単位当たりの【無償貸付機械等評価額】及び【積算単価】を算出

表 8：付属構造物塗替の代表規格・構成比

規格		構成比(%)	東京(H29.4)(円)	大阪(H30.4)(円)
K		1.55	—	—
K1	高所作業車 [トラック架装・伸縮ブーム・バスケット型] 作業床高 12.0m 積載荷重 200kg 定員 2名	1.55	9,320	9,410
R		93.55	—	—
R1	塗装工	72.75	26,800	24,300
R2	運転手 (特殊)	20.08	22,200	20,200
Z		4.90	—	—
Z1	鉛系錆止めペイント (2種) 合成樹脂系	2.91	345	345
Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	1.99	101	114

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

【積算単価】

$$P'(\text{大阪 H30.4}) = 1,658.3$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{1.55}{100} \times \frac{9,410}{9,320} \right) \times \frac{1.55}{1.55} + \left(\frac{72.75}{100} \times \frac{24,300}{26,800} + \frac{20.08}{100} \times \frac{20,200}{22,200} \right) \times \frac{93.55}{72.75 + 20.08} \right. \\ & \left. + \left(\frac{2.91}{100} \times \frac{345}{345} + \frac{1.99}{100} \times \frac{114}{101} \right) \times \frac{4.90}{2.91 + 1.99} + \frac{100 - 1.55 - 93.55 - 4.90}{100} \right\} \\ & = 1,519.1528762 \dots \approx \mathbf{1,520(\text{円}/\text{m}^2)} \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ

【無償貸付機械等評価額】

無償貸付機械等評価額 = (端数調整なしの持込損料) - (端数調整なしの貸与損料)

$$= 196.5814636 \dots - 25.9518612 \dots = 170.6296024 \dots \approx 170.6(\text{円})$$

$$\text{端数調整なしの持込損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} \times \frac{K1t''}{K1t'''} = 1,658.3 \times \frac{1.55}{100} \times \frac{9,410}{9,320} \times \frac{2,530}{334} = 196.5814636 \dots$$

$$\text{端数調整なしの貸与損料} = P \times \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} = 1,658.3 \times \frac{1.55}{100} \times \frac{9,410}{9,320} = 25.9518612 \dots$$

※無償貸付機械等評価額は1,000円以上の場合、円未満切り捨て。1,000円未満の場合は、小数位含め有効数字4桁とし、以降切り捨て。ただし、小数第2位までとし、3位以下は切り捨てる。

K1t' : K1の供用日当り換算損料

K1t'' : K1の時間(日)当り換算損料

K1t''' : K1の時間(日)当り貸与損料

Ⅲ. 物価変動に伴う標準単価及び機労材構成比の改定

「平成30年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表」については、「平成29年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表」に対して物価変動の反映等を行うこととし、使用する機械経費単価、労務単価、材料単価、市場単価の基準年月を更新（平成28年4月→平成29年4月）しています。

○物価変動の反映例

- ・施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・条 件 区 分：高炉 24-12-25(20)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満、基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し
- ・標 準 単 価：47,210 円

	規格	構成比 (%)	東京(H28.4) (円)	東京(H29.4) (円)	新構成比 (%)
K		2.49	—	—	2.45
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.38	51,800	51,800	1.34
K2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) (*賃料)	0.30	747	747	0.34
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.24	416	416	0.22
R		43.03	—	—	42.27
R1	普通作業員	15.26	19,800	19,700	15.18
R2	型わく工	10.12	24,300	24,700	9.94
R3	土木一般世話役	3.52	23,000	23,300	3.45
R4	特殊作業員	0.99	22,700	22,600	0.95
Z		41.36	—	—	42.61
Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55% (注)	29.96	13,400	13,700	29.67
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	9.85	48,500	56,500	11.09
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.04	47.2	62.2	1.29
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	0.44	89	101	0.48
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	13.12	66,500	66,500	12.67

(注)平成29年度(平成28年4月)におけるZ1規格は、「生コンクリート 高炉 24-8-25(20) W/C 55%」である。

平成29年度標準単価

45,617円 (基準年月平成28年4月)



平成30年度標準単価

47,210円 (基準年月平成29年4月)

. 施工パッケージ 標準単価 一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	参考: 施工パッケージ型積算基準		備考
			編	章 項	
001	掘削	001-1~4	1	1	土工
002	土砂等運搬	002-1~29	1	1	土工
003	整地	003-1	1	1	土工
004	路体(築堤)盛土	004-1	1	1	土工
005	路床盛土	005-1	1	1	土工
006	押土(ルーズ)	006-1	1	1	土工
007	積込(ルーズ)	007-1	1	1	土工
008	人力積込	008-1	1	1	土工
009	転石破砕	009-1	1	1	土工
010	土材料	010-1	1	1	土工
011	残土等処分	011-1	1	1	土工
012	掘削(ICT)	012-1	1	1	土工(ICT)
013	路体(築堤)盛土(ICT)	013-1	1	1	土工(ICT)
014	路床盛土(ICT)	014-1	1	1	土工(ICT)
015	床掘り	015-1~3	1	1	床掘工
016	掘削補助機械搬入搬出作業	016-1	1	1	床掘工
017	基面整正	017-1	1	1	床掘工
018	舗装版破砕積込(小規模土工)	018-1	1	1	床掘工
019	埋戻し	019-1	1	1	埋戻工
020	タンバ締め	020-1	1	1	埋戻工
021	人肩運搬(積込み~運搬~取卸し)土・石	021-1~2	1	1	人力運搬工
022	人肩運搬(積込み~運搬~取卸し)セメント等	022-1	1	1	人力運搬工
023	人肩運搬(積込み~運搬~取卸し)積ブロック類	023-1	1	1	人力運搬工
024	人肩運搬(運搬~取卸し)	024-1~3	1	1	人力運搬工
025	小車運搬(積込み~運搬~取卸し)土・石	025-1~2	1	1	人力運搬工
026	小車運搬(積込み~運搬~取卸し)セメント等	026-1	1	1	人力運搬工
027	小車運搬(積込み~運搬~取卸し)積ブロック類	027-1	1	1	人力運搬工
028	小車運搬(運搬~取卸し)	028-1~3	1	1	人力運搬工
029	安定処理	029-1	1	1	安定処理工
030	法面整形	030-1	2	1	法面整形工
031	法面整形(ICT)	031-1	2	1	法面整形工(ICT)
032	市松芝	032-1	2	1	芝付工
033	吹付法面取壊し	033-1	2	1	吹付法面とりこわし工
034	プレキャストコンクリート板	034-1	2	1	プレキャストコンクリート板設置工
035	プレキャストコンクリート板(材料費)	035-1	2	1	プレキャストコンクリート板設置工
036	ジョイント処理	036-1	2	1	プレキャストコンクリート板設置工
037	ジョイント金物(材料費)	037-1	2	1	プレキャストコンクリート板設置工
038	人工張芝	038-1	2	1	人工張芝工
039	基礎砕石	039-1	2	1	基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工
040	裏込砕石	040-1	2	1	基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工
041	基礎栗石	041-1	2	1	基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工
042	裏込栗石	042-1	2	1	基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工
043	コンクリートブロック積	043-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
044	大型ブロック積	044-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
045	間知ブロック張	045-1~13	2	1	コンクリートブロック積(張)工
046	平ブロック張	046-1~8	2	1	コンクリートブロック積(張)工
047	連節ブロック張	047-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
048	緑化ブロック積	048-1~4	2	1	コンクリートブロック積(張)工
049	緑化ブロック(材料費)	049-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
050	天端ブロック(材料費)	050-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
051	胴込・裏込コンクリート	051-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
052	胴込・裏込材(砕石)	052-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
053	遮水シート張	053-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
054	吸出し防止材(全面)設置	054-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
055	植樹	055-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
056	現場打基礎コンクリート	056-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
057	天端コンクリート	057-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
058	プレキャスト基礎ブロック	058-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
059	プレキャスト基礎ブロック(材料費)	059-1	2	1	コンクリートブロック積(張)工
060	石積(練石)(複合)	060-1	2	1	石積(張)工
061	石張(複合)	061-1~2	2	1	石積(張)工
062	石積(張)	062-1	2	1	石積(張)工
063	石積(張)(材料費)	063-1	2	1	石積(張)工
064	胴込・裏込コンクリート	064-1	2	1	石積(張)工
065	裏込材(クラッシュラン)	065-1	2	1	石積(張)工
066	平石張	066-1	2	1	平石張工
067	平石(材料費)	067-1	2	1	平石張工
068	小型擁壁(A)	068-1~3	2	1	場所打擁壁工(1)
069	小型擁壁(B)	069-1~11	2	1	場所打擁壁工(1)
070	重力式擁壁	070-1~7	2	1	場所打擁壁工(1)
071	もたれ式擁壁	071-1~4	2	1	場所打擁壁工(1)
072	逆T型擁壁	072-1~15	2	1	場所打擁壁工(1)
073	L型擁壁	073-1~15	2	1	場所打擁壁工(1)
074	ベールコンクリート(材料費)	074-1	2	1	場所打擁壁工(1)
075	コンクリート(場所打擁壁)	075-1	2	1	場所打擁壁工(2)
076	プレキャスト擁壁設置	076-1~2	2	1	プレキャスト擁壁工
077	補強土壁壁面材組立・設置	077-1	2	1	補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)
078	補強土壁壁面材(材料費)	078-1	2	1	補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)
079	補強材取付	079-1	2	1	補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)
080	補強材(材料費)	080-1	2	1	補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)
081	まき出し・敷均し, 締め	081-1	2	1	補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)
082	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	082-1	2	1	ジオテキスタイル工
083	ジオテキスタイル壁面材(材料費)	083-1	2	1	ジオテキスタイル工
084	ジオテキスタイル敷設	084-1	2	1	ジオテキスタイル工
085	まき出し・敷均し, 締め	085-1	2	1	ジオテキスタイル工
086	ジオテキスタイル(材料費)	086-1	2	1	ジオテキスタイル工
087	ヒューム管(B形管)	087-1~8	2	1	排水構造物工
088	ボックスカルバート	088-1~11	2	1	排水構造物工
089	暗渠排水管	089-1~2	2	1	排水構造物工
090	フィルター材	090-1	2	1	排水構造物工
091	管(函)渠型側溝(製品長 2m/個)	091-1	2	1	排水構造物工
092	プレキャスト集水樹	092-1~2	2	1	排水構造物工
093	プレキャスト集水樹(材料費)	093-1	2	1	排水構造物工
094	鉄筋コンクリート台付管	094-1	2	1	排水構造物工
095	プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個)	095-1	2	1	排水構造物工
096	プレキャストマンホール	096-1	2	1	排水構造物工
097	PC管	097-1~4	2	1	排水構造物工
098	コルゲートパイプ	098-1~4	2	1	排水構造物工

施工パッケージ 標準単価 一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	編 章 項		参考: 施工パッケージ型積算基準		備考
			編	章	型積算基準	施工パッケージ型積算基準	
099	コルゲートフリューム	099-1~2	2	2		排水構造物工	
100	現場打ち水路(本体)	100-1~12	2	2		排水構造物工(現場打ち水路(本体))	2
101	現場打ち集水樹・街渠樹(本体)	101-1~17	2	2		排水構造物工(現場打ち集水樹・街渠樹(本体))	2
102	サンドマット	102-1	2	2		サンドマット工	
103	安定シート・ネット	103-1	2	2		サンドマット工	
104	粉体噴射攪拌	104-1~3	2	2		粉体噴射攪拌(DJM工法)	
105	粉体噴射攪拌(移設)	105-1	2	2		粉体噴射攪拌(DJM工法)	
106	粉体噴射攪拌(軸間変更)	106-1	2	2		粉体噴射攪拌(DJM工法)	
107	削孔(アンカー)	107-1~4	2	①		アンカー工(ロータリーバーカッション式)	
108	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理(アンカー)	108-1~4	2	①		アンカー工(ロータリーバーカッション式)	
109	グラウト注入(アンカー)	109-1	2	①		アンカー工(ロータリーバーカッション式)	
110	ボーリングマシン移設(アンカー)	110-1	2	①		アンカー工(ロータリーバーカッション式)	
111	足場(アンカー)	111-1	2	①		アンカー工(ロータリーバーカッション式)	
112	アンカー(材料費)	112-1	2	①		アンカー工(ロータリーバーカッション式)	※3
113	石種とりこわし(人力)	113-1	2	②		構造物とりこわし工	
114	コンクリートはつり	114-1	2	②		構造物とりこわし工	
115	積込(コンクリート殻)	115-1	2	②		構造物とりこわし工	※1
116	コンクリート削孔(電動ハンマドリル38mm)	116-1	2	③		コンクリート削孔工	
117	コンクリート削孔(さく岩機)	117-1	2	③		コンクリート削孔工	
118	コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)	118-1	2	③		コンクリート削孔工	
119	吸出し防止材設置	119-1	2	④		吸出し防止材設置工	
120	目地板	120-1	2	⑤		目地・止水板設置工	
121	止水板	121-1	2	⑤		目地・止水板設置工	
122	高欄撤去	122-1	2	⑥		旧橋撤去工	
123	アスファルト舗装版破碎・積込み	123-1	2	⑥		旧橋撤去工	
124	床版1次破碎・撤去	124-1	2	⑥		旧橋撤去工	
125	床版1次及び2次破碎・撤去	125-1	2	⑥		旧橋撤去工	
126	桁1次切断・撤去	126-1~6	2	⑥		旧橋撤去工	
127	桁1次及び2次切断・撤去	127-1~6	2	⑥		旧橋撤去工	
128	アスファルト塊運搬	128-1~3	2	⑥		旧橋撤去工	
129	床版運搬	129-1	2	⑥		旧橋撤去工	
130	ジャコ	130-1	2	⑦		かご工	
131	ふとんかご	131-1	2	⑦		かご工	
132	止杭打込	132-1	2	⑦		かご工	
133	発泡スチロール設置	133-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	
134	発泡スチロール(材料費)	134-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	※3
135	緊結金具(材料費)	135-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	※3
136	コンクリート床版	136-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	※2
137	支柱結合アンカー(材料費)	137-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	※3
138	支柱設置	138-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	
139	支柱(材料費)	139-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	※3
140	壁面材設置	140-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	
141	壁面材(材料費)	141-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	※3
142	裏込砕石(軽量盛土)	142-1	2	⑧		発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	
143	現場取卸(鋼桁)	143-1	2	⑨		現場取卸費	
144	現場取卸(PC桁)	144-1	2	⑨		現場取卸費	
145	現場取卸(鋼管杭)	145-1	2	⑨		現場取卸費	
146	函渠	146-1~43	2	⑩		函渠工(1)	※2
147	コンクリート(場所打函渠)	147-1	2	⑩		函渠工(2)	※2
148	般運搬	148-1~12	2	⑪		般運搬	
149	コンクリート	149-1~4	3			コンクリート工	2
150	モルタル練	150-1	3			コンクリート工	
151	型枠	151-1	3			型枠工	
152	化粧型枠	152-1	3			型枠工	
153	化粧型枠(材料費)	153-1	3			型枠工	3
154	撤去しない埋設型枠(材料費)	154-1	3			型枠工	3
155	型枠(鉄筋構造)(省力化構造)	155-1	3			型枠工(省力化構造)	
156	消波根固めブロック製作	156-1~19	4			消波根固めブロック工	2
157	消波根固めブロック横取り	157-1	4			消波根固めブロック工	
158	消波根固めブロック積込み	158-1	4			消波根固めブロック工	
159	消波根固めブロック荷卸	159-1	4			消波根固めブロック工	
160	消波根固めブロック据付け	160-1~3	4			消波根固めブロック工	
161	消波根固めブロック運搬	161-1~70	4			消波根固めブロック工	
162	根固めブロック撤去	162-1~24	4			消波根固めブロック工(ブロック撤去工)(0.25以上35.5以下)	
163	捨石	163-1	4			捨石工	
164	捨石(材料費)	164-1	4			捨石工	3
165	表面均し	165-1	4			捨石工	
166	除草	166-1	5			堤防除草工	
167	集草	167-1	5			堤防除草工	
168	梱包	168-1	5			堤防除草工	
169	積込・荷卸	169-1	5			堤防除草工	
170	運搬(堤防除草)	170-1~5	5			堤防除草工	
171	除草・集草(人力)・梱包・積込・荷卸(総合)	171-1~2	5			堤防除草工	
172	除草・集草(機械)・梱包・積込・荷卸(総合)	172-1	5			堤防除草工	
173	不陸整正・締固め	173-1	5			堤防天端補修工	
174	抜根	174-1	5			堤防芝養生工	
175	施肥	175-1	5			堤防芝養生工	
176	伐木・伐竹(伐木除根)	176-1	5			伐木除根工	
177	除根(伐木除根)	177-1	5			伐木除根工	
178	整地(伐木除根)	178-1	5			伐木除根工	
179	集積積込み(機械施工)(伐木除根)	179-1	5			伐木除根工	
180	集積(人力施工)(伐木除根)	180-1	5			伐木除根工	
181	積込み(人力施工)(伐木除根)	181-1	5			伐木除根工	
182	運搬(伐木除根)	182-1~8	5			伐木除根工	
183	伐木・伐竹(複合)	183-1	5			伐木除根工	
184	散在塵芥収集	184-1~8	5			塵芥処理工	
185	堆積塵芥収集(機械処理)	185-1~19	5			塵芥処理工	
186	堆積塵芥収集(人力処理)	186-1~19	5			塵芥処理工	
187	削孔	187-1~10	5			ボーリンググラウト工	
188	注入	188-1~12	5			ボーリンググラウト工	
189	注入設備据付・解体	189-1	5			ボーリンググラウト工	
190	河床等掘削	190-1	5			機械土工(河床等掘削)	1
191	軟弱土等運搬	191-1~2	5			機械土工(河床等掘削)	
192	巨石張(練)	192-1~12	5			巨石積(張)工	
193	巨石張(空)	193-1	5			巨石積(張)工	
194	巨石積(練)	194-1~12	5			巨石積(張)工	
195	巨石採取	195-1	5			巨石積(張)工	
196	巨石(材料費)	196-1	5			巨石積(張)工	3

施工パッケージ 標準単価 一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	参考: 施工パッケージ型積算基準		備考
			編	章 項	
197	木杭打	197-1	5	木杭打工	
198	プレキャスト基礎	198-1~3	5	護岸基礎ブロック工	2
199	プレキャスト基礎(材料費)	199-1	5	護岸基礎ブロック工	3
200	中詰コンクリート(材料費)	200-1	5	護岸基礎ブロック工	3
201	中詰コンクリート打設	201-1	5	護岸基礎ブロック工	2
202	かごマット設置(スロープ型)	202-1	5	かごマット工(スロープ型)	
203	野芝種子吹付	203-1	5	野芝種子吹付工	
204	被覆シート張	204-1	5	野芝種子吹付工	
205	養生(散水養生)	205-1	5	野芝種子吹付工	
206	袋詰玉石	206-1	5	袋詰玉石工	
207	笠コンクリートブロック	207-1~2	5	笠コンクリートブロック据付工	
208	笠コンクリートブロック(材料費)	208-1	5	笠コンクリートブロック据付工	3
209	グラウトホール	209-1	5	グラウトホール工	
210	グラウト管(材料費)	210-1	5	グラウトホール工	3
211	掘削(光ケーブル配管)	211-1	5	光ケーブル配管工	
212	埋戻し・締固め	212-1	5	光ケーブル配管工	
213	敷砂・保護砂(材料費)	213-1	5	光ケーブル配管工	3
214	配管設置(埋設部)	214-1	5	光ケーブル配管工	
215	配管設置(露出部)	215-1	5	光ケーブル配管工	
216	配管支持金具(材料費)	216-1	5	光ケーブル配管工	3
217	プルボックス(材料費)	217-1	5	光ケーブル配管工	3
218	可とう電線管(材料費)	218-1	5	光ケーブル配管工	3
219	伸縮継手(材料費)	219-1	5	光ケーブル配管工	3
220	ローマールバンド(材料費)	220-1	5	光ケーブル配管工	3
221	多孔保護管(材料費)	221-1	5	光ケーブル配管工	3
222	ハンドホール	222-1	5	光ケーブル配管工	
223	掘削(砂防)	223-1	6	土工	1
224	土砂等運搬(砂防)	224-1~2	6	土工	
225	押土(ルーズ)(砂防)	225-1	6	土工	
226	積込(ルーズ)(砂防)	226-1	6	土工	1
227	粒径処理	227-1	6	砂防ソイルセメント工	
228	攪拌混合	228-1~3	6	砂防ソイルセメント工	
229	混合材料敷均し・締固め	229-1	6	砂防ソイルセメント工	
230	ボーリング	230-1~3	7	地すべり防止工(集排水ボーリング工)	
231	保孔管	231-1	7	地すべり防止工(集排水ボーリング工)	
232	ボーリング仮設機材	232-1	7	地すべり防止工(集排水ボーリング工)	
233	足場(地表)	233-1	7	地すべり防止工(集排水ボーリング工)	
234	不陸整正	234-1~2	8	路盤工	
235	下層路盤(車道・路肩部)	235-1	8	路盤工	
236	下層路盤(歩道部)	236-1	8	路盤工	
237	上層路盤(車道・路肩部)	237-1	8	路盤工	
238	上層路盤(歩道部)	238-1	8	路盤工	
239	不陸整正(ICT)	239-1~2	8	路盤工(ICT)	
240	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	240-1	8	路盤工(ICT)	
241	上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	241-1	8	路盤工(ICT)	
242	基層(車道・路肩部)	242-1~6	8	アスファルト舗装工	
243	中間層(車道・路肩部)	243-1~6	8	アスファルト舗装工	
244	表層(車道・路肩部)	244-1~6	8	アスファルト舗装工	
245	基層(歩道部)	245-1~4	8	アスファルト舗装工	
246	中間層(歩道部)	246-1~4	8	アスファルト舗装工	
247	表層(歩道部)	247-1~4	8	アスファルト舗装工	
248	アスカープ	248-1	8	アスファルト舗装工	
249	セメントミルク浸透	249-1	8	半たわみ性(コンボジット)舗装工	
250	排水性舗装・表層(車道・路肩部)	250-1~4	8	排水性アスファルト舗装工	
251	フィルター層	251-1	8	透水性アスファルト舗装工	
252	透水性アスファルト舗装	252-1	8	透水性アスファルト舗装工	
253	踏掛版	253-1~2	8	踏掛版	2
254	基礎ブロック(立入防止柵)	254-1	9	立入り防止柵工	
255	金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	255-1	9	立入り防止柵工	
256	支柱	256-1	9	立入り防止柵工	
257	支柱(材料費)	257-1	9	立入り防止柵工	3
258	車止めポスト	258-1	9	車止めポスト設置工	
259	防雪柵	259-1~2	9	防雪柵設置及び撤去工	
260	防雪柵(材料費)	260-1	9	防雪柵設置及び撤去工	3
261	防雪柵現地張出し・収納	261-1	9	防雪柵現地張出し・収納工	
262	雪崩予防柵	262-1	9	雪崩予防柵設置工	
263	雪崩予防柵(材料費)	263-1	9	雪崩予防柵設置工	3
264	吊柵アンカー	264-1	9	雪崩予防柵設置工	
265	パイプアンカー(材料費)	265-1	9	雪崩予防柵設置工	3
266	樹脂アンカー(材料費)	266-1	9	雪崩予防柵設置工	
267	簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去	267-1	9	雪崩予防柵設置工	
268	ボックスビーム	268-1	9	ボックスビーム設置工	
269	落下物等防止柵	269-1	9	落下物等防止柵設置工	
270	落下物等防止柵(材料費)	270-1	9	落下物等防止柵設置工	3
271	支柱アンカー	271-1	9	しゃ音壁設置工	
272	支柱アンカー(材料費)	272-1	9	しゃ音壁設置工	3
273	支柱建込	273-1	9	しゃ音壁設置工	
274	支柱(材料費)	274-1	9	しゃ音壁設置工	3
275	土留板取付	275-1	9	しゃ音壁設置工	
276	土留板(材料費)	276-1	9	しゃ音壁設置工	3
277	しゃ音板・透光板取付	277-1	9	しゃ音壁設置工	
278	しゃ音板・透光板(材料費)	278-1	9	しゃ音壁設置工	3
279	落下防止索(材料費)	279-1	9	しゃ音壁設置工	3
280	下段パネル(材料費)	280-1	9	しゃ音壁設置工	3
281	笠木取付	281-1	9	しゃ音壁設置工	
282	笠木(材料費)	282-1	9	しゃ音壁設置工	3
283	外装板取付	283-1	9	しゃ音壁設置工	
284	外装板(材料費)	284-1	9	しゃ音壁設置工	3
285	水切板取付	285-1	9	しゃ音壁設置工	
286	水切板(材料費)	286-1	9	しゃ音壁設置工	3
287	歩車道境界ブロック	287-1~4	9	路側工(据付け)	2
288	地先境界ブロック	288-1~4	9	路側工(据付け)	2
289	歩車道境界ブロック撤去	289-1	9	路側工(取外し)	
290	地先境界ブロック撤去	290-1	9	路側工(取外し)	
291	特殊ブロック舗装	291-1	9	特殊ブロック設置工	
292	組立歩道組立据付	292-1~3	9	組立歩道工	
293	組立歩道(材料費)	293-1	9	組立歩道工	3
294	排水樹	294-1	9	橋梁付属施設設置工	

. 施工パッケージ 標準単価 一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	参考: 施工パッケージ型積算基準		備考
			編	章 項	
295	橋名板取付	295-1	9	橋梁付属施設設置工	
296	橋梁用高欄	296-1	9	橋梁付属施設設置工	
297	橋梁用高欄一体式(材料費)	297-1	9	橋梁付属施設設置工	3
298	トンネル内装板設置	298-1	9	トンネル内装板設置工	
299	トンネル内装板(材料費)	299-1	9	トンネル内装板設置工	3
300	距離標	300-1	9	道路付属物設置工	
301	スノーボール設置・撤去	301-1	9	スノーボール設置・撤去工	
302	スノーボール(材料費)	302-1	9	スノーボール設置・撤去工	3
303	路面切削	303-1	10	路面切削工	
304	殻運搬(路面切削)	304-1~4	10	路面切削工	
305	舗装版破砕	305-1~2	10	舗装版破砕工	
306	舗装版切断	306-1	10	舗装版切断工	
307	クラック補修	307-1	10	舗装版クラック補修工	
308	注入材(材料費)	308-1	10	舗装版クラック補修工	3
309	クラック防止シート張	309-1	10	舗装版クラック補修工	
310	クラック防止シート(材料費)	310-1	10	舗装版クラック補修工	3
311	素地調整	311-1	10	道路付属構造物塗替工	
312	付属構造物塗替	312-1~6	10	道路付属構造物塗替工	
313	張紙防止塗装	313-1	10	張紙防止塗装工	
314	張紙防止塗装(材料費)	314-1	10	張紙防止塗装工	3
315	鋼板(材料費)	315-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	3
316	スタッドジベル(材料費)	316-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	3
317	鋼板巻立て	317-1~2	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	
318	シール材(材料費)	318-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	3
319	注入材(材料費)	319-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	3
320	現場溶接	320-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	
321	ワーキングアンカー削孔・定着	321-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	
322	アンカー材(材料費)	322-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	3
323	アンカー注入材(材料費)	323-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)	3
324	鋼板取付	324-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(2)	
325	シール材(材料費)	325-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(2)	3
326	注入材(材料費)	326-1	10	橋梁補強工(鋼板巻立て)(2)	3
327	コンクリート削孔	327-1~2	10	橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)	
328	コンクリート巻立て	328-1~3	10	橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)	2
329	足場(適用範囲外コンクリート巻立て工)	329-1	10	橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)	
330	下地処理(適用範囲外コンクリート巻立て工)	330-1	10	橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)	
331	型枠(適用範囲外コンクリート巻立て工)	331-1	10	橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)	
332	コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て工)	332-1	10	橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)	2
333	とりこわし	333-1	10	橋梁地覆補修工	
334	鉄筋	334-1	10	橋梁地覆補修工	
335	コンクリート	335-1	10	橋梁地覆補修工	2
336	足場・防護	336-1~3	10	橋梁地覆補修工	
337	支承取替(鋼橋)	337-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	
338	支承取替(PC橋)	338-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	
339	支承(材料費)	339-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	3
340	足場	340-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	
341	沓座コンクリートはつり(支承直下部以外)	341-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	
342	下部工ブラケット取付	342-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	
343	下部工ブラケット(材料費)	343-1	10	橋梁補修工(支承取替工)	3
344	現場溶接鋼桁補強	344-1	10	橋梁補修工(現場溶接鋼桁補強工)	
345	コンクリート削孔(電動式コアボーリングマシン)	345-1~2	10	落橋防止装置工	
346	コンクリート削孔(電動ハノマリル)	346-1	10	落橋防止装置工	
347	コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル(空圧式)])	347-1	10	落橋防止装置工	
348	アンカー	348-1	10	落橋防止装置工	
349	アンカー材(材料費)	349-1	10	落橋防止装置工	3
350	注入材(材料費)	350-1	10	落橋防止装置工	3
351	充填補修	351-1	10	落橋防止装置工	
352	補修材(材料費)	352-1	10	落橋防止装置工	3
353	除草	353-1	10	道路除草工	
354	集草	354-1	10	道路除草工	
355	積込運搬	355-1~2	10	道路除草工	
356	機械除草(肩掛式)・集草・積込運搬	356-1~3	10	道路除草工	
357	機械除草(肩掛式)・集草	357-1	10	道路除草工	
358	機械除草(ハンドガイド式)・集草・積込運搬	358-1~2	10	道路除草工	
359	機械除草(ハンドガイド式)・集草	359-1	10	道路除草工	
360	路面清掃(路肩部・人力)	360-1	10	路面清掃工(人力清掃工)	
361	路面清掃(歩道等・人力)	361-1	10	路面清掃工(人力清掃工)	
362	側溝清掃(人力清掃工)	362-1	10	側溝清掃工(人力清掃工)	
363	樹清掃(人力清掃工)	363-1	10	集水樹清掃工(人力清掃工)	
364	面導水	364-1	10	トンネル漏水対策工	
365	面導水(材料費)	365-1	10	トンネル漏水対策工	3
366	線導水	366-1	10	トンネル漏水対策工	
367	線導水(材料費)	367-1	10	トンネル漏水対策工	3
368	チップング(厚1~2cm)	368-1	10	沓座拡幅工	
369	アンカーボルト挿入	369-1	10	沓座拡幅工	
370	アンカーボルト(材料費)	370-1	10	沓座拡幅工	3
371	注入材(材料費)	371-1	10	沓座拡幅工	3
372	桁連結装置(材料費)	372-1	10	① 桁連結工	※3
373	芯出し素地調整	373-1	10	① 桁連結工	
374	現場孔明	374-1	10	① 桁連結工	
375	連結板取付	375-1	10	① 桁連結工	
376	現場溶接	376-1	10	① 桁連結工	
377	ボルト締め	377-1	10	① 桁連結工	
378	路肩整正(人力による土はね)	378-1~2	10	② 路肩整正(人力による土はね)	
379	ガードレール復旧	379-1	10	③ 防護柵復旧工	
380	ガードパイプ復旧	380-1	10	③ 防護柵復旧工	
381	舗装版破砕積込	381-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
382	床掘り	382-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
383	埋戻し・締固め	383-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
384	運搬(電線共同溝)	384-1~2	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
385	軽量鋼矢板設置・撤去	385-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
386	覆工板設置・撤去	386-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
387	管路材設置	387-1~2	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
388	受金具(材料費)	388-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	3
389	支持金具(材料費)	389-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	3
390	管路受台(スペーサ)(材料費)	390-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	3
391	プレキャストボックスブロック設置	391-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	
392	蓋設置	392-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	

施工パッケージ標準単価一覧

No.	施工パッケージ名称	ページ	参考: 施工パッケージ型積算基準		備考
			編	章	
393	蓋(材料費)	393-1	11	電線共同溝工(C・C・BOX)	3
394	舗装版破砕	394-1	11	情報ボックス工	
395	床掘り	395-1	11	情報ボックス工	
396	埋戻し	396-1	11	情報ボックス工	
397	中埋材(材料費)	397-1	11	情報ボックス工	3
398	埋設表示シート(材料費)	398-1	11	情報ボックス工	3
399	基礎材	399-1	11	情報ボックス工	
400	埋設部管路材設置	400-1~4	11	情報ボックス工	
401	露出部管路材設置	401-1	11	情報ボックス工	
402	スリーブ(材料費)	402-1	11	情報ボックス工	3
403	伸縮継手(材料費)	403-1	11	情報ボックス工	3
404	ハンドホール	404-1	11	情報ボックス工	
405	ハンドホール蓋(材料費)	405-1	11	情報ボックス工	3
406	ハンドホール固定板(材料費)	406-1	11	情報ボックス工	3
407	支持金具(材料費)	407-1	11	情報ボックス工	3
408	型枠(鋼橋床版)	408-1	12	鋼橋床版工	
409	養生(鋼橋床版)	409-1	12	鋼橋床版工	2
410	コンクリートアンカーボルト設置	410-1	12	橋梁排水管設置工	
411	排水管設置	411-1	12	橋梁排水管設置工	
412	排水管(材料費)	412-1	12	橋梁排水管設置工	3
413	現場発生品・支給品運搬	413-1~11	13	現場発生品及び支給品運搬	

- 1 当該施工パッケージは、東日本大震災の被災3県(岩手県、宮城県、福島県)、および熊本地震の被災地(熊本県)で適用する施工パッケージ標準単価表を使用する。
- 2 当該施工パッケージは、東日本大震災の被災3県(岩手県、宮城県、福島県)で適用する施工パッケージ標準単価表を使用する。
- 3 物価資料等による

